

コヘレトの言葉 第九章

¹¹ 太陽の下、再びわたしは見た

足の速い者が競走に

強い者が戦いに必ずしも勝つとは言えない

知恵があるといってパンにありつくのでも

聡明だからといって富を得るのでも

知識があるといって好意をもたれるのでもない

時と機会はだれにも臨むが

¹² 人間がその時を知らないだけだ

魚が運悪く網にかかったり

鳥が畏にかかったりするように

人間も突然不運に見舞われ、畏にかかる

ルカによる福音書 第四章

⁴⁰ 日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、

病人たちをイエスのもとに連れて来た。イエスはその一人一人に手

を置いていよされた。⁴¹ 悪霊もわめき立て、「お前は神の子だ」と

言いながら、多くの人々から出て行った。イエスは悪霊を戒めて、

ものを言うことをお許しにならなかった。悪霊は、イエスをメシア

だと知っていたからである。

受験シーズンです。コロナ感染で不利益をこうむる受験生のないように、文部科学省は全国の大学に対応を要請しました。全国九九%以上の大学がこれに添えて濃厚接触者、感染者の救済措置をとることにしました。

新型コロナ・オミクロン株による感染は、自動車の「もらい事故」にたとえられます。きちんと注意していれば、事故をもらう確率は減りますが、完全にすることはできません。コロナも、運が悪ければ備えていた人が感染します。

文科省は、本人の責任ではない《不運》のために実力が出せない人を救済しようとしたのです。文科省がそのように判断したのは、受験の不運は「その人の一生を左右する」ものと考えているからです。これも、現代の社会通念と一致するでしょう。

不運で損をする人を減らすように、社会全体でケアしようとするのは、たいへん善いことに違いありません。途上国では、今も「運も実力のうち」です。不運な人を助ける力を社会が持っていないので、《不運》を本人の責任にせざるを得ないのです。

不運は本人の責任ではありません。社会が豊かになれば、不運な人を救済できる機会は増えます。しかしどんなに豊かな社会でも、運／不運はなくなりません。世に「救済措置」がある限り「救済措置の《適用外》」も残ります。

不運は社会が救済するのが「当たり前」と考えると、不運に悩む

人は社会から落ちこぼれた人ということになってしまいました。受験時に風邪を引いて実力が出せなかった。そういう場合、昔なら「あの時は不運だった」で済ませることも出来ました。今は「あの時は不運だったから、俺は落ちこぼれた、一生は台無しになった」ということになりかねません。

キリスト教信仰では、運／不運ということを言いません。イエスさまは、人の運／不運をほとんど「無視」します。

ルカ福音書は「カファルナウム」という町での出来事です。町の人たちは、無償で難病を癒やす魔法使いのような人物（イエス）が現れたことを喜び、病人をいやしてもらいました。今後町に留まらせて、この超能力者を利用し続けようと思いました。

しかしイエスさまの来られた目的は病氣治療ではありません。「神の国の福音を告げ知らせるため」です。そこで一部の病人は治療しますが、他の病人は放置します。カファルナウム以外の町の人は、イエスのゆえの現世利益から漏れました。不運と言えば不運です。

自分の不幸を運のせいにするのが「悪霊」のしわざです。イエスさまが運／不運を重要視しないのは、不運がそのまま不幸になるわけではないからです。

北京オリンピックでは、平野歩夢選手が金メダルをとりました。三回の試技のうち三回目で最高得点を出したからです。実際は、二回目も高得点で良かったはずが、ジャッジが不当だったので物議を醸しました。不当な判定がそのまま得点になったのは不運です。その意味で、平野選手の二回目は不運でした。

ところが本人の弁では、二度目が不当に思えた「怒り」のゆえに三度目に最高のパフォーマンスができたとのことでした。彼は不運を実力で幸運に変えました。

ただ、だから平野選手の一生は幸せかと言えば、それはこれからの生きかたにかかっています。実力があるのに金メダルがとれなかった選手もいるでしょう。そうした選手は不幸かと言えば、それもこれからの生きかたにかかっています。

運／不運は、自分ではコントロールできません。自分にコントロールできない不幸を「不運」と呼ぶのです。しかし自分の生きかたは自分でコントロールできます。不運な中でも正しい方向に精一杯に生きた人は、自分の人生に満足できるでしょう。

では「正しい方向」とは、どちらでしょうか。イエスさまは「神の国の福音を告げ知らせるため」に遣わされたと言われます。神の国の福音が、人を不運な中でも幸せにする正しい方向と関係します。

神を、人間を超えた絶対の尊いものとして畏れ敬うことを、イエスさまは出来るようにしてくださいました。そのために、私たちは隣人を正しく愛せるようになりました。

私たちは、運が良ければ宝くじが当たるかもしれない。それでも、神を畏れ敬い隣人を愛することが出来なければ、その人は不幸です。運が悪ければ、貧乏な上に病気になるかもしれない。それでも、隣人を本当に心から愛することが出来れば幸せです。不運な中でも隣人を愛することの出来る人は、神を畏れ敬っている人です。